

企業名： 稲畑産業

レポート名： 統合報告書 2021

1. この会社が目指す姿が理解できるか

稲畑産業が目指す姿は、時代とともに変化する顧客と社会のニーズに応え、グローバルに事業を展開することにより、価値ある存在として常に進化を続けるというものである。また、2030年頃の同社のありたい姿である「IK Vision 2030」からも理解できる。これは、商社機能を継続的に高度化するとともに、同社の強みを生かせる事業分野・領域への投資を積極的に進め、さらに、事業ポートフォリオを変化に対応して最適化することで、収益力のさらなる向上を図るものである。具体的には連結売上高 1 兆円以上を早期に達成することや海外比率 70%以上や情報電子・合成樹脂以外の事業の比率を 1/3 以上にすることなどを目指している。IK Vision 2030 の第 2 ステップとなる「New Challenge 2023」(NC2023) という中期経営計画も存在する。この計画の中で、将来の成長に向けた投資の積極化や環境負荷低減商材などへの取り組みの強化、グローバルな経営情報インフラの高度化などに重点を置いている。

2. この会社の競争優位性が理解できるか

同社は、グローバルな事業を展開しており、それぞれの現地のニーズに応えるさまざまな原材料を供給し、専門性の強いサービスを提供できることが強みである。日本を中心に 17 か国、約 60 拠点で働く高い専門性を有するグローバルな人財が高い価値を創出している。この人財力と情報力を核として、ファイナンスや製造加工、商品開発、物流など各機能と組み合わせることによって、新たな価値が創造される。また、製造加工、協創、商品開発、物流におけるそれぞれのビジネスモデルが提供されており、同社の取組や強みが分かる。さらに、利益が過去最高となったことや海外事業が実質的に成長していることなどから良い業績を残していることが理解できる。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

長期ビジョンである IK Vision 2030 から同社が今後も海外進出に力を入れることや製造・物流・ファイナンスなどの複合的な機能の高度化を目指すことなどが分かるため、同社の強みは今後も強化され続けることが予想できる。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

同社は NC2023 の重点政策の 1 つに人的資本活用に向けた取り組みの強化を掲げており、多様な人財の働きがいと個々の能力を高める施策に注力しているため、自身の人的資本の

価値向上を達成できる環境が整っているだろう。具体的には、従業員満足度調査をするなど、従業員の声に耳を傾け、より働きやすい環境づくりをしている。また、グローバルスタッフミーティングや若手社員の海外研修などが行われており、グローバルに活躍するためのふさわしい環境づくりがなされている。顧客の資金負担軽減や、為替リスク回避など、ビジネスの課題に対する解決策を提案・実行したり、顧客のニーズに合わせた施策を行うことなどによって、自身の能力を高めることができる。より働きやすい環境で質の高い社員とともに切磋琢磨し、人的資本の価値を向上させることができると考えられる。

5. 報告書にはどのような改善余地があるか

同社の統合報告書には、財務データや会社の経営理念、将来のビジョン、役員を紹介、社員の能力、商品開発力など必要な情報がそろっており、とてもわかりやすい報告書となっているので改善する必要はないと考える。